

千葉実験所

Chiba Experiment Station

〔柏キャンパス一般公開 2019年10月25・26日開催！〕

駒場リサーチキャンパスでは実施が難しいフィールドテストや大型実験設備等を必要とする研究が行われている。

柏市柏の葉5-1-5（最寄駅：TX柏の葉キャンパス駅）

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/facilities/chiba/>

〔概要〕

千葉実験所は東京大学生産技術研究所（以下「生研」という）の附属施設。平成29年4月1日をもって、千葉市稲毛区弥生町の西千葉キャンパス（以下「西千葉」という）から千葉県柏市にある柏キャンパスへ機能移転した。千葉実験所は、駒場リサーチキャンパスでは実施が困難な大型設備を使用する試験研究や広いフィールドを使用する実験等を行う施設として、生研の研究活動において極めて重要な役割を担っている。柏キャンパスには、航空機の格納庫のような大空間実験室を備えた【研究実験棟Ⅰ】、充実した海洋工学水槽施設を有する【研究実験棟Ⅱ】、ITS 関連研究に代表される大規模な屋外実験を行う【実験フィールド】、特徴的な張力バランス制御を駆使した【テンセグリティー構造モデルスペース（ホワイトライノⅡ）】等が新営された。機能移転を行った平成29年度から柏キャンパスの一員として柏キャンパス一般公開に参画し、自動運転車両の試乗など様々な公開企画を行っている。

〔沿革〕

生研は、東京帝国大学第二工学部（以下「二工」という）の有形無形の資産を継承して、1949年5月に西千葉に設置された。二工との併存期間を経て、1951年から生研としての研究活動が本格的に始まり、ロケットの研究開発や試験溶鉱炉の操業に代表される数々の大型プロジェクトも開始された。1955年には西千葉にてペンシルロケットから2段式ペンシルまでの飛翔実験（水平発射実験）が実施された。

その後1962年2月に生研本体が港区麻布（現在の六本木）へ移転した後も、試験溶鉱炉をはじめとする大型設備による研究は引き続き西千葉で行われた。以降、研究の進展に伴い、1967年6月に「千葉実験所」として生研の附属施設に位置付けられてから、津波高潮実験棟、大型振動台、海洋工学水槽等多くの実験施設が順次設置され、いっそうの教育・研究および産学連携の活動を推進してきた。

柏キャンパスへの機能移転を機に、4つの研究室を柏キャンパスに配置し、キャンパス内の研究科・研究所・センターとも連携を深め、柏キャンパス全体の活性化に貢献する新たな活動を開始した。

研究実験棟Ⅰ



千葉実験所俯瞰図



研究実験棟Ⅱ（海洋工学水槽）



ホワイトライノⅡ



千葉試験線（実験軌道）



Ⅰ（大空間実験室）



Ⅱ（海洋工学水槽）



再生可能エネルギー環境試験建屋

